

婦人科領域の腫瘍マーカー測定の意義



腫瘍マーカー検査は補助的検査であり、診察所見やほかの検査と組み合わせる事で意味のある検査になります、腫瘍マーカー単独の検査はおすすめしません

腫瘍マーカーとその診断的な意味

がん細胞だけが作り出す特別な物質があって血液検査で測定・診断できれば、苦痛を伴う検査を受ける必要はなくなるかもしれません。つまりがん検診は今より楽になるはずですが、しかし、現実の腫瘍マーカーは、前立腺がんのPSAや絨毛がんのhCG以外では、ある一定以上の大きさにならなくては異常値にならないうえ、がん以外の良性の病気や身体の状態や体質で異常値になる場合があります。つまり腫瘍マーカーは感度が低く特異度も不十分な検査なので、単独でがんを早期発見することはできません。

婦人科疾患に関連するおもな腫瘍マーカーとその意味

【CA125】（糖タンパク抗原）：基準値 35U/ml 以下

- ・陽性となる事の多い癌：卵巣癌、子宮体癌、肺癌、膵臓癌、癌性腹膜炎など
- ・癌ではないのに陽性となる場合：子宮内膜症、胸水・腹水の貯留、月経中の検査、妊娠、肝硬変、人工透析中など

【CA19-9】（糖鎖抗原）：基準値 37U/ml 以下

- ・陽性となる事の多い癌：卵巣癌、子宮体癌、膵臓癌、胆嚢癌、消化管の癌、肺癌、肝癌など
- ・癌ではないのに陽性となる場合：子宮内膜症、良性卵巣腫瘍（特に成熟嚢胞性奇形腫）、リウマチ、自己免疫疾患、膵炎、糖尿病、人工透析中など

【STN】（糖鎖抗原）：基準値 45U/ml 以下

- ・陽性となる事の多い癌：卵巣癌、胃癌、大腸癌など
- ・癌ではないのに陽性となる場合：（比較的少ない）

【CA72-4】（糖鎖抗原）：基準値 6.9U/mL 以下

- ・陽性となる事の多い癌：卵巣癌や胃癌、大腸癌、膵癌のような消化器癌、乳癌で比較的高い陽性率がみられる。
- ・癌ではないのに陽性となる場合：多くの良性疾患の偽陽性率は、10%以下と低い。

【HE4】（糖タンパク抗原）：基準値は閉経前後で異なります：閉経前女性 70 pmol/L 以下、閉経後女性 140 pmol/L 以下

- ・陽性となる事の多い癌：卵巣癌
- ・卵巣癌以外で陽性となる場合はほとんどない（特異度 100%）ただし感度は 52.8%と高くないため、他の腫瘍マーカーと組み合わせて評価する

【SCC】（タンパク抗原）：基準値 1.5ng/ml 以下

- ・陽性となる事の多い癌：子宮頸癌（扁平上皮癌）、卵巣癌の一部、肺癌（扁平上皮癌）、食道癌など
- ・癌ではないのに陽性となる場合：湿疹・水虫など皮膚疾患、呼吸器疾患、人工透析中など

そのほか病状によって CEA, AFP, hCG, LDH などを組み合わせて測定することがあります。